

# 設置後の管理

## 電気ショックが弱い場合の確認方法

### 確認 1 本器が正常に出力をしているか確認

**① 電源を確認**  
電源がつながっているか、電池やバッテリーが切れていないか確認(p.43参照)しましょう。問題なければ、以下の方法で出力を確認してください。

**②**  
本器のスイッチを切にする。  
※機種によりスイッチの形状が異なります。ご注意ください。

**③**  
電気さく線から出力コードを外す。

**① 出力コードを確認**  
出力コードの結び目が焦げたり、金属線部分が切れていないか、緩んだりしていないか確認してください。

**② マイナス線・マイナス棒の確認**  
マイナス線やマイナス棒に不良箇所がないか確認してください。(p.80参照)

**検電器による確認**      **検電器がない場合**

**④**  
埋め込まれているマイナス棒につけるようにテスターのフット金具を地面に挿す。

**⑤**  
テスターの測定金具と出力コードの先端を接触させる。

**⑥**  
本器のスイッチを連続にする。

**⑦**  
パルスチェッカーで良好(緑色)が点滅(デジタルテスターでは、6.0KV以上表示)すれば、本器は正常です。

**④**  
本器マイナス(アース)端子部に出力コード先端を近づける。マイナス(アース)端子に接触させず約2mm程度離す。

**⑤**  
本器のスイッチを連続に入れると、正常であれば火花が飛びます。約1秒間隔で強い火花が飛ばれば正常です。(火花によって故障することはありません。)

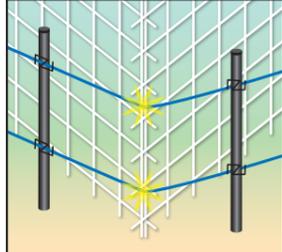
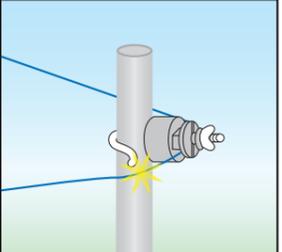
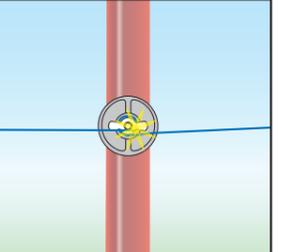
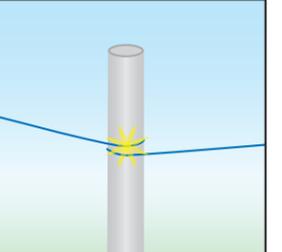
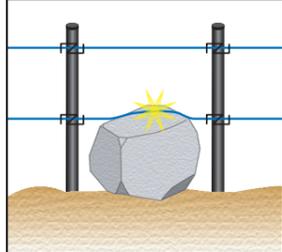
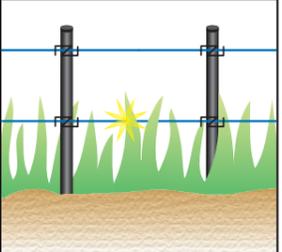
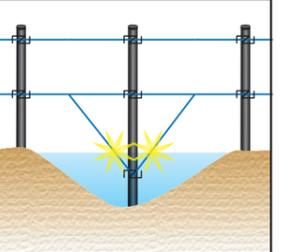
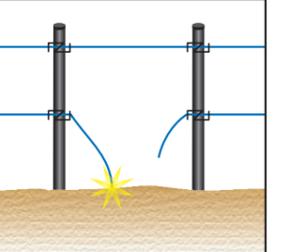
**正常であれば次ページ 確認2へ**

### 確認 2 出力コード・マイナス線の確認 確認後、不良箇所があれば手直してください。

**① 出力コードを確認**  
出力コードの結び目が焦げたり、金属線部分が切れていないか、緩んだりしていないか確認してください。

**② マイナス線・マイナス棒の確認**  
マイナス線やマイナス棒に不良箇所がないか確認してください。(p.80参照)

### 確認 3 電気さくの確認 下記のようなさく線の不良がないか確認し不良箇所があれば手直してください。

 <p><b>ワイヤーメッシュなど金属に触れている</b> 設置コースを変更してください。</p>	 <p><b>金属製のパイプに触れている</b> コーナーを重点的に確認してください。</p>	 <p><b>ガイシのネジ部分に巻きついている</b> コーナーを重点的に確認してください。</p>	 <p><b>金属製のパイプに直接巻き付けている</b> ビニールテープを巻いての設置も不可。必ずガイシを使用してください。</p>
 <p><b>木や石に触れている</b></p>	 <p><b>草がからまっている</b></p>	 <p><b>水につかっている</b></p>	 <p><b>切れたり・たんで地面に触れている</b></p>

不良箇所があると電気ショックが弱くなります。電気さくは定期的に点検しましょう。\*さく線の不良により故障することはありません。

おすすめ 草が生えるのを防ぐマイナスシートを使うと、草による漏電の心配や下刈りの手間を軽減します。(詳しくはp.73をご覧ください)

すべてに異常がなく改善しない場合は、お客様専用フリーダイヤルへご連絡・ご相談ください。

本器が正常に作動しない場合は当社へご連絡いただき、ご相談の上、修理をご依頼ください。

**送付時のご注意点**

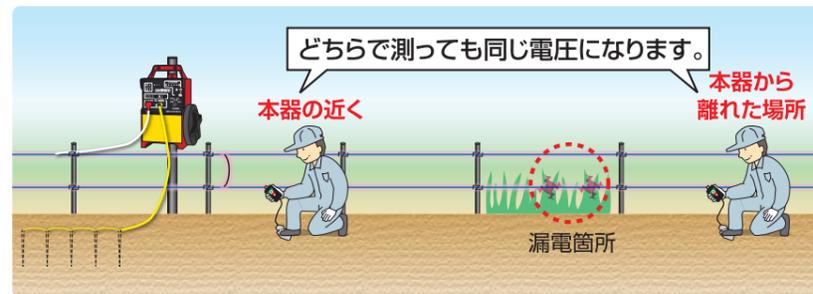
- 輸送時に汚れなどが外に出ないように本器はビニール袋に入れてください。
- 箱に入れる際は、輸送時の衝撃に耐えられるようにすき間にはクッション材を詰めて梱包してください。

※価格および商品の仕様・外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。  
※価格には運賃や設置費は含まれておりません。別途申し受けます。※税込価格の税率は10%です。

## 電圧と漏電の関係について

漏電箇所がどこであっても電気さく全体の電圧が下がってしまいますのでさく線のどこで電圧を測っても同じ電圧になります。

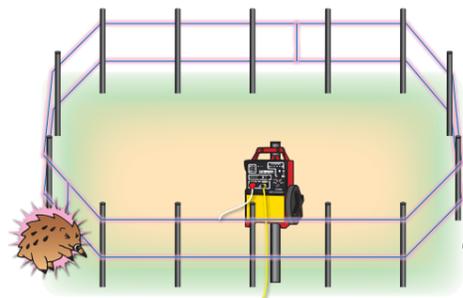
※電圧は、マイナスの状態・さく線の劣化測定環境によって同じ電圧にならない場合があります。



## 効果を持続させるためには

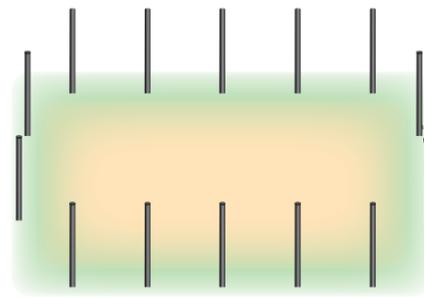
通電の無い電気さく線に、獣が触れると電気さくを怖がらなくなりますのでどちらかの方法をとってください。

電気さく線を回収しない時は  
**通電させる**



電気さくの中に入れないように、作物が無い時期も通電を継続させる。

電気さく線に通電させない時は  
**回収する**



通電していない電気さく線に触れないように、電気さく線を撤去して、次に使う時にまた設置する。

**おすすめ** 巻取器を使うと、電気さく線の撤収の手間が軽減します。(詳しくはp.69をご覧ください)

## 被害を減らすために日常でできること

電気さくの設置とあわせて取り組むことで、より高い対策効果が期待できます。

### 来てはいけない場所だと覚え込ませる

もし、野生の動物に出会ったら追い払うことが大切です。「ここは来てはいけない場所だ」と動物に教えないといけないからです。そうでないと動物たちはどんどん人に慣れてしまい、農作物を荒らすようになります。



### エサになるものを放置しない

人里におりてきた動物にエサを与えないことはもちろんですが、農地には様々な理由で出荷できない農作物がそのまま放置されていることがあります。これらは動物たちのエサになると同時に、エサ場としての認識を与え、今度は収穫前の農作物を荒らすようになります。



## 電気さく、よくあるご質問

**Q** 電気さくの設置は専門の人しかできないのですか？

**A** 特別な免許や資格は必要ありません。どなたでも簡単に設置できます。

**Q** 電気さくでどのような獣害を防げますか？

**A** 主にイノシシ・シカ・サル・クマ・小動物(タヌキ・ハクビシン・アライグマ・アナグマ・ヌートリア)などです。その他の獣害対策もご用意しておりますので、お気軽にお問い合わせください。

**Q** どれだけの資材が必要なのかわからない？

**A** 対象動物によって必要な段数などが変わります。詳しくは、電気さく資材の基本的な選び方(p.3)や対象動物別対策(p.5~)を参照ください。

こちらでも  
ご確認ください。



**Q** 通電状況を確認するにはどうしたらいいですか？

**A** 検電器(テスター)を使って電圧を測定できます。(p.70参照)

**Q** 防雨型の本器は地面に置いてもいいですか？

**A** 地面に直接置かないでください。水に浸かると故障の原因となります。取付支柱(p.56参照)を使って吊り下げて固定してください。

**Q** 電源にはどんな種類がありますか？

**A** アルカリ単一乾電池・12Vバッテリー・AC100V・ソーラー(太陽電池)の4種類です。設置場所や使用環境に合わせてお選びください。

**Q** 電気が弱い・流れない場合の原因は？

**A** 本器の故障、マイナス不良、さくの漏電が考えられます。p.83の手順にそって、本体・マイナス・さくの順で点検してください。

この他「よくあるご質問」について  
詳しくは、こちらをご覧ください。



その他、ご質問などありましたら  
フリーダイヤル0120-53-6163 または TEL.0965-53-6161へ  
お問い合わせください。



※価格および商品の仕様・外観は改良のため予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。  
※価格には運賃や設置費は含まれておりません。別途申し受けます。※税込価格の税率は10%です。